

令和5年市町村広報コンクール審査票(町村部)

○広報紙の名称「広報しようわ 11月号」

評価された点

■全体

- ・特集「防火意識を高める」は、防災診断の仕掛けがあったり、地域の火災の状況を分析したり、消防団の活動を紹介したりと、さまざまな角度からアプローチしている。表紙の写真も秀逸。
- ・こども映画教室は、写真をふんだんに使って映画制作のワークショップの様子を生き生きと伝えている。
- ・表紙の写真からひきつけられ、開くと、ページごとに訓練に参加する子どもたちやお年寄りの写真や、全景が入るように広角で撮影した写真など、様々なアングルで撮影した写真が満載で、一冊の雑誌を見ているようだった。
- ・インタビューの内容も簡潔にまとめられ、消防団の団長の写真の配置も効果的だった。
- ・効果的なレイアウトだけでなく、消火器の使い方といった大事な話題も丁寧に掲載しており、質実ともに充実した内容だった。
- ・こども映画教室も、子どもたちの魅力的な表情が満載で、映画監督への取材もしており、面白かった。
- ・特集面の充実ぶりだけでなく、ニューストピックスなど、細やかなできごとともフォローしており、充実の広報紙だと感じた。取材のきっかけとなるような情報も多かった。
- ・表紙写真とタイトル、そして特集記事が連動していて、関心度が高まると考えられる。
- ・レイアウト、写真選定等で、とても読みやすい広報紙となっている。
- ・文章にこまめに小見出しを挟み、フォントや色使いも変えて読みやすくしている点、写真と文章の配分バランスの良い点が目立った。防火特集の内容も充実している。
- ・質、量ともに充実。2ページに目次、納税やごみ収集の情報を載せるなど、気配りも行き届いている。

■表紙

- ・写真の構図が素晴らしい。「がんばれ未来の消防団」の見出しも良い。
- ・表紙写真のかわいらしさ、楽しさが目につく。

■特集

- ・新聞社が見習いたいくらいの完成度。「防火診断」から入り、データや具体的な対策を明示した。村外の群馬県防災航空隊長にインタビューし、「昭和村への出動は約10分」を見出しに取った。恐れ入る。

■その他

- ・18~20ページの写真と記事の見せ方もうまい。
- ・目次に村関連情報のSNSなどのQRコードを貼ったのは素晴らしい工夫である。また、ゴミ収集日という関心が高い生活情報をここに掲載したのも村民目線を感じる。個人的には優勝候補としたい。表紙の子どももインパクト大。
- ・「お知らせ」が1ページ1テーマ。表やチャートなどを載せて、目に留まる作りだ。

令和5年市町村広報コンクール審査票(町村部)

○広報紙の名称「広報おうら 12月号」

評価された点

■全体

・多文化共生の特集は、邑楽町でも外国人が増えている実態や在住する外国人の声、町の施策、課題などがまとめてあり、読ませる企画だと感じた。

・フォトパレットの運動会特集は写真に使い方がうまい。

・「共に生きる、この町で」は、とても意義のある特集だと感じた。多文化共生、という言葉はいろんな場所で聞かれ、五輪やW杯など大規模な国際スポーツ大会のたびに注目される言葉ではあるが、自分の暮らす地域に目をやってみると、隣人との関わりを深めることこそが、本当の多文化共生なのだと思わせてくれる良質な特集だった。

・地域で暮らす4人の写真もとても良い。働いている場所での様子も取材し、どのように生活しているのか、どんな気持ちで異国での暮らしを送っているのか、イメージがわき、とても身近に感じられた。町内で行っているセレモニーや講座、英会話イベントなど、多種多様な内容にも驚いた。こうした環境で育つ町内の子どもたちは、自然に異文化への関心を深め、自分と違う他者への理解も深くなるだろうな、とうらやましくなった。こうした特集は今後もぜひ力を入れて掲載して欲しい。

・情報広場も、多くの人たちの顔写真が掲載されており、行政を身近に感じさせる工夫を感じた。

・特集「共に生きる、この町で」…住みよい地域をつくる上での重要課題「多文化共生」に力を入れていることが分かる。町に暮らす外国人の顔と人柄が伝わる「interview」のコーナーは特に良かった。継続的な取り組みに期待。

・特集、その他の記事の分量とバランスが良い。

■特集

・特集「多文化共生～共に生きる、この町で」は、外国人居住者が急激に増えている同町の町民に理解してもらおう契機となる企画であった。

・多文化共生の記事は、県内有数の外国人居住地域である町の特徴が明確になっていて好印象

・東毛の自治体らしいテーマ。

・1～2ページ。数値をグラフで示し、記事でも「およそ1学級に1人は外国人のクラスメート」と分かりやすく解説している。

・4～7ページに登場する人たちの国籍が様々。現状を表している。

・8ページの「使ってみよう『やさしい日本語』」は、ためになる。

令和5年市町村広報コンクール審査票(町村部)

○広報紙の名称「広報ちよだ 11月号」

評価された点

■全体

・パパの子育ての特集は、育児休業制度を図解入りで説明したうえで、育児休業を取得している（予定している）男性に取材して思いを伝えている。また、育児に利用できる視察とサービスを紹介するなど充実した内容になっている。

・運動会の記事は、子供たちの表情をとらえた写真がたくさん載っていて楽しい。

・育児休業制度の改正に伴い、父親の育休環境が変わるという住民にとって大きな関心事であるテーマに感度良く反応し、身近な住民のケースを取り上げる特集の狙いは素晴らしいと思った。「隣の家はどうしているのだろう」という気になるテーマだが、なかなか聞けない人も多いであろう中、各家庭の状況といった生の声を紹介する意義は大きいと感じた。育休中の給与面での事情など、インタビュー内容も具体的でよかった。こうした国の法制度が足もとの暮らしにどんな変化をもたらすのか、現場から発信する特集は今後もぜひ続けて欲しい

・こども園や小学校の運動会の写真が紙面一杯にあふれて、見ているだけで元気になる構成だった。多くの住民の方も喜んでいると思う。

・熱中人も、夢を追って修行中の若者を取り上げており、写真も含めて面白かった。

・特集「パパの子育て」は、産後パパ育休制度の新設を受けたタイムリーな企画。図表も見やすい。従業員への周知が行き届かない企業もあるはず。また夫婦と一緒に制度利用を考えることも大切で、地方自治体が家庭向けの広報に取り組む意義は大きいと思う。

・話題、お知らせ、人モノが過不足なく盛り込まれている。

・適度に余白があり、読みやすい。

■表紙

・特集のメッセージが伝わる。夫婦、赤ちゃんの表情がすてきで、自然と笑顔になる。

■特集

・特集「パパの子育て」のタイトルは気負わなくてよい感じ。当事者インタビューも参考になる。

・育児休業制度改正に紙幅を割いた特集は、子育て支援に注力する町の意味を感じられる。こども園、小学校の運動会で楽しげな子どもの写真がたくさんあるのも良い。

・題材がタイムリー。改正された育児休業の概要、町の支援策などを手際よくまとめている。4、5ページのインタビューは実体験だけに、子育て世代の参考になるはずだ。